

# さんらくえん通信

編集：下野三楽園編集委員会

第2号

## 下野三楽園夏の恒例行事 一万人プールではじける夏！

たのしかった一万人プール

小学2年 T

七月二十九日に三楽えんの行じて一万人プールに行きました。わたしは、さいしよになみのプールに行きました。なみがくるところしるに行ったり、前に行ったりしておもしろかったです。つきにながれるプールに行きました。うきわをつかいました。ゆっくりプクプクうかんでながれて、きもちがよかったです。

おひるは、そばとフランクフルトを食べました。かえりにおこづかいをもらって、チョコのアイスと水でっぽうをかいました。アイスはおいしかったです。水でっぽうは今もつかってあそんでいます。また一万人プールに行きたいです。



『いろいろなプールで遊べて楽しかった!!』

絵：小学4年 I

一万人プールに行ったこと

小学6年 N

今日は、待ちに待った一万人プールです。朝起きたらくもっていましたが、楽しみでドキドキしました。ご飯を食べて用意をしていよいよ出発です。同じ居室の人たちと出かけました。車の中では、みんなも一万人プールを楽しみにしていたので盛り上がりました。

そしていよいよ一万人プールに着きました。最初、ほくは波のプールに行きました。冷たくて寒かったです。そのうちだんだん慣れて、思い切り波に乗って遊びました。次にとても長いすべり台に行きました。スピードが出てたくさん水をかぶりながらすべりました。

お昼は、売店からあげを買い、おいしく食べました。次に飛びこみプールでジャンプして飛びこみました。楽しかったです。最後に流れるプールにきました。ボートに乗って遊んだ後、近くにいたお兄さんたちと遊びました。また一万人プールに行きたいです。

太陽を浴びて、水しぶきをあげる子ども達まぶしい光は、どんな子どもにも平等に注がれています。元気いっぱい笑顔がいつまでも消えないほしい、職員の願いです。

### 呼 称

園長 田村匡彦

篠井・榛名山の麓、雑木林と田圃に囲まれて三楽園は在ります。昭和46年桜四丁目から定員120名の施設として引っ越してきました。

下野三楽園は小舎制を施設の基本と位置付けていることもあり、来訪された方々が一見のびのびとした子ども達の姿に驚かれることも少なくありません。

園の子と職員の間をどのような呼称で築いていくかは大切な課題の一つです。「先生」か「〇〇さん」か、それともニックネームか。生活の場に似合わなくても、職員が「先生」と呼ばれるような努力が当分の間、必要だと考えています。子ども達には、「親しき中にも礼儀あり」と語りかけ続けたいと思います。

言葉は生命です。子ども達の笑顔を見ながらその将来を思い考えます。





# …学んで、遊んで、作って!!

## キャンプで古代生活体験



白と赤の古代人衣装、とても似合っていました。

原人衣装に身を包み…

「煙なんて全然出ないよー。」「あともう少し！ガンバレ、ガンバレ！」「やったあ！着いたあ！」

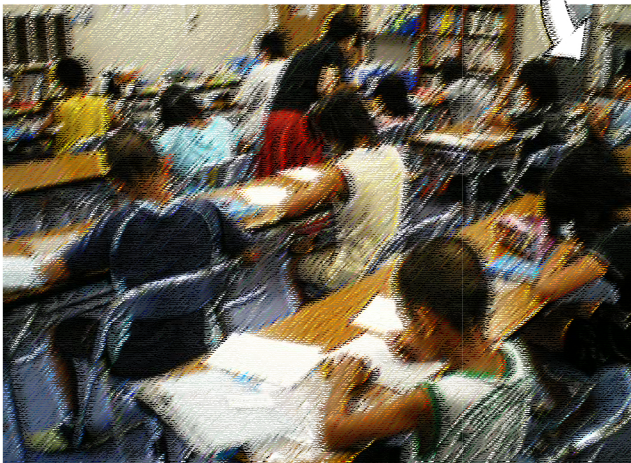
これはキャンプの火起こし的一幕です。七月二十〜二十一日、夏の恒例行事、小学5、6年生キャンプが、旧葛生町にある古代生活体験村で行われました。子ども職員も原人衣装に身を包み、竹の食器づくりや魚のつかみ取り、ひもぎり式火起こしでバーベキューの火種を作るなど、原人生活に触れる貴重な体験ができました。

準備段階での苦労もありましたが、キャンプ後の子ども言葉が今も心に残っています。

「楽しかったね。また来年も行きたい！」

(近藤)

## 公文式で基礎学力 UP!



真剣さが背中から伝わってきます。

## 達成感を自信につなげ

園では、小・中学生を対象に公文式学習を取り入れています。夏休みに行われた約1時間もの集中学習では、驚くほど静かに教材に取り組む姿を見ることができました。学校の先生から「計算が速くなり、算数に積極的になった」との評価をもらったKちゃんは、「集中学習では40枚もできたし、楽しかった！前は公文が辛かったけど、今では力になっているからうれしい。最近、進級した夢を見たよ」と得意顔。

公文の学習が、達成する喜びや自信に繋がっていくことを目指し、子ども達を支援していきたいと思えます。(相澤)

## 木工教室で虫かご作り



園の桜並木の下で頑張った1時間。オンリーワンの虫かごが出来ました。

気分は大工さん!?

全建総連栃木県建設労働組合県央地区青年部のボランティアの方々による木工教室が八月二十三日に開催されました。本物の大工さんの指導で、子どもたちは虫かご作りに挑戦、のこぎり片手に一生懸命取り組みました。

## 初めての虫かご作りの

小学5年M

私は、初めて虫かごを作ったので、完成してうれしかったです。

ずっと今までは、本立てなどを作っていたが、今年はすごく楽しめました。また来年なども作れたらいいです。そして、一杯虫をつかまえてみたいです。

私は虫かごを大切にしておきたいなあと思いました。楽しかったです。





# イベントたっぷり、三楽園の夏！

## 豊かな森で身体も心も大満足！

小学生 4 名を連れ長野県黒姫での 3 日間にわたる「アファン心の森プロジェクト」に参加。C.W ニコルさんが丹精込めて作った豊かな森の中で、森遊びのプロの方々に支えられ、身体全部を目一杯使って遊ぶ子ども達の顔は生き生きとしていました。

子ども達は「木のブランコやハンモックに乗ったのが気持ちよかった」「最初は不安だったけど、いろんな人達と仲良くなれて良かった」「森にいて気持ちが落ち着いた」「バーベキューが最高に美味しかった」と大満足の様子。

自然環境やスタッフの方々に大きく包まれ、自分をのびのびと表現した子ども達は目の輝きが増したように思います。(相澤)

## アファン心の森プロジェクト



「その杖は実のなる木から作ったんだよ」とニコルさんは優しく語りました。

## 響け太鼓よ！宮まつり



「見よ、この雄姿！」真剣なバチさばきに拍手が起こります。

## さんらく太鼓に拍手喝采

八月二日の宮まつりで、三楽園の小学 4 年生から 6 年生の子も達十名が、二荒山神社階段下の特設ステージで太鼓の演奏を披露しました。

十五分余りのステージでは、楽しそうに目を輝かせ、小さい身体ながらも全身で太鼓にエネルギーを注ぐ子ども達。その姿に成長を感じました。

全員の力が重なって響く音に観客の方々から拍手をいただき、子ども達は嬉しそうでした。職員は、ほっと胸をなでおろしました。その後、子ども達はお小遣いを持って、出店を回り、宮まつりを楽しみました。(石川直)

## 社会に向けての第一歩 … 自立促進事業

### 企業見学と東京散策

『社会復帰等自立促進事業』は、高年齢者を対象に、社会へ巣立つ準備に向けての自立意欲の助長を図る目的で行う事業です。

今回は、高校生女子 2 名を対象に、普段はめったに利用しない公共交通機関、特に電車をフルで利用、また企業見学も併せて実施し、自立心の向上・社会性の涵養を図ることを主目的とし、東京方面へと出掛けました。

東京駅から中央線、京王線と電車を乗り継ぎ、バスにてサントリー工場見学へ。その後は、渋谷、銀座、新橋、臨海地区へ…。

都会の雑踏、酷暑の中、二人とも人の流れにもまれながらも、元気によく歩きました。(西宮)



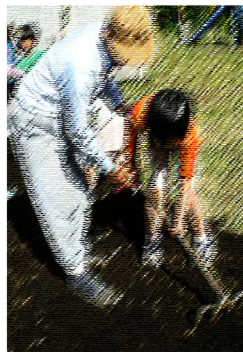
渋谷駅の人ごみにちょっとタジタジ。参加したMさんは、帰途宇都宮駅前デッキにてポソッとつぶやく。「マジ、宇都宮人少な一、でも落ち着くー」。



# 篠井地区 花いっぱいコンクール 特別賞受賞!



地域の方にも  
お世話になり  
ました



「去年よりもきれいに咲きました」

絵: 小学6年 K

咲いたよ!  
大きなひまわり



## うれしかった特別賞 小学4年 U

『毎年篠井地区で、花いっぱいコンクールが行われています。まず、5月の最初のころに種を植えました。そのときに地域の人たちがまずビニールハウスで育てたほうが良いよって教えてくれて、種をあずかってももらいました。1カ月たってやっと芽が出てきました。そしてみんなで苗を花だんに植えました。』

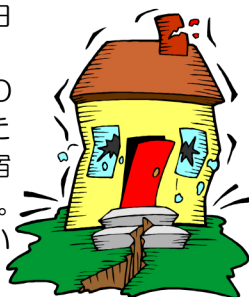
何週間かたってすごく大きくなりました。そのときに地域の人たちがたおれないようにしてくれました。数日たってやっと花がさきました。とてもうれしかったです。そしてコンクールで特別賞を取りました。来年もがんばりたいです。』

## しのい奇譚

### 地震列島日本に暮らすコツ?

先日、静岡県にてやや大きな地震があり、高速道路等が損壊しました。静岡に限らず日本は地震列島と呼ばれる位地震が多い国です。しかしながら、幸いにも本県は北海道の一部や群馬県と並んで、記録上は有史来被害地震のもっとも少ない地域と言われています。篠井地区も例外ではなく、確かに中小地震は度々起こるものの、関東大震災や阪神大震災等の大地震は記録にありません。

ところが、昭和24年、突如隣の旧今市市を震度6の直下型地震が襲い、多数の死傷者が出ました。その後60年の歳月が流れました。「災害は忘れた頃にやって来る」誰しも地震列島の宿命から逃れることは出来ないのです。「備えあれば憂いなし」肝に銘じたいものです。(西宮)



## 仏子

日光山輪王寺 鈴木常元

人は誰でも仏子(ほとけの子)です。それは、仏性(ぶつしょう)を持つているから。仏性とは、ほとけ様の種。ほとけ様の遺伝子。人の心の中には、それがある。否も応もなく、誰の心の中にもそれがある。人は誰でもほとけ様になれる。否、ほとけ様になる。なぜならば、それは遺伝だから。ほとけ様の種を持つているから。

でも、自分の中の仏性に、自分が気付かなければ、種は眠ったまま、ホコリを被ったまま、いつまでも芽を出さない。そして、他人の中の仏性にも気付けない。仏性を眠らせてはいけない。絶対に自分の心の中の仏性から目を離してはいけない。どんな時も、他人の心の中の仏性を見つめ続けなければいけない。

## ご寄付・ご支援のお願い

下野三楽園では、平成22年度施設整備に伴う約1億円の自己資金確保を目指しています。また、子ども達の学習指導や習い事、環境美化や修繕など、様々なボランティアの協力を求めています。

皆様のご協力をお願いします。

### ご寄付振込口座

足利銀行 戸祭出張所 普通49622

口座名義人: 社会福祉法人 下野三楽園

理事長 鈴木常元

※本園へのご寄付は確定申告で「寄付控除」が受けられます

春先に子ども達が蒔いたひまわりの種は、この夏2mを超す立派な茎に成長し、いくつもの大輪の花を咲かせました。太陽に正面きって堂々と胸を張る姿に、園の子ども達の未来を重ねます。



発行元:

社会福祉法人 下野三楽園

発行責任者: 田村匡彦

〒321-2105 栃木県宇都宮市下小池町 194 番地

Tel: 028-669-2131 Fax: 028-669-2241

E-mail: shimotsuke-sanrakuen@nifty.com